

「熱中症警戒アラート」について

令和4年度は4月27日(水)から10月26日(水)まで実施



環境省

×



気象庁

熱中症警戒アラート

環境省・気象庁が新たに提供する、暑さへの「気づき」を呼びかけるための情報。熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に発表し、国民の熱中症予防行動を効果的に促す。

1. 背景

- 熱中症による**死亡者数・救急搬送人員**は高い水準で推移しており、**気候変動等の影響を考慮すると熱中症対策は極めて重要**



2. 発表方法

- 高温注意情報を、熱中症の発生との相関が高い**暑さ指数(WBGT)**を用いた新たな情報に置き換える

暑さ指数(WBGT)とは、人間の熱バラスに影響の大きい
気温 湿度 輻射熱

の3つを取り入れた暑さの厳しさを示す指標です。

※各地域の暑さ指数は環境省の熱中症予防情報サイト参照

3. 発表の基準

- 府県予報区内のどこかの地点で暑さ指数(WBGT)が**33以上になると予測した場合に発表**

暑さ指数(WBGT)	注意すべき生活活動の目安 ^{注1)}	日常生活における注意事項 ^{注2)}	熱中症予防運動指針 ^{注3)}
33以上	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては暑熱状態でも発生する危険性が高い。発生するべく避け、涼しい室内に移動する。	運動は原則中止 特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもは中止を止めず。
28~31℃	中等程度以上の生活活動でおこる危険性	外出時は直射日光を避け、室内では室温の上昇に注意する。	酷暑警戒(強い暑熱中症) 熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避け、10~20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。暑さに慣れた人は運動を軽減または中止。
25~28℃	中等程度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休憩を取り入れる。	酷暑警戒(強い暑熱中症) 熱中症の危険性が高いため、暑熱に注意をとり適量、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきに15分休憩をとる。
21~25℃	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	注意(暑熱に水分補給) 熱中症による死に至る可能性があり、熱中症の発症に注意するとともに、運動の休憩に積極的に水分・塩分を補給する。

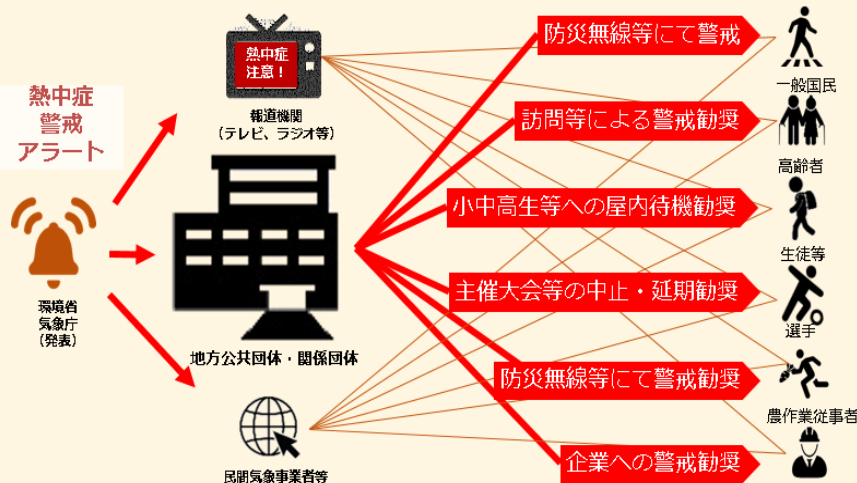
注1) 日本生気象学会指針より引用
注2) 日本スポーツ協会指針より引用

4. 発表の地域単位・タイミング

- <地域単位>
- 気象庁の府県予報区等单位で発表
 - 該当府県予報区内の観測地点毎の予測される暑さ指数(WBGT)も情報提供

- <タイミング>
- 前日の17時頃及び当日の朝5時頃に最新の予測値を元に発表
 - 報道機関の夜及び朝のニュースの際に報道いただくことを想定
 - 「気づき」を促すものであるため、一度発表したアラートはその後の予報で基準を下回っても取り下げない

5. 情報の伝達方法 (イメージ)



※ 農作業従事者向けの「MAFFアプリ」や訪日外国人旅行者向けの「Safety tips」、LINE公式アカウントをはじめとしたSNSアカウント等も活用し、情報を発信。

6. 発表時の熱中症予防行動例

- 熱中症の危険性が極めて高くなると予測される日の前日または当日に発表されるため、**日頃から実施している熱中症予防対策を普段以上に徹底することが重要。**
- (例)
- 不要不急の外出は避け、昼夜を問わずエアコン等を使用する。
 - 高齢者、子ども、障害者等に対して周囲の方々から声かけをする。
 - 身の回りの暑さ指数(WBGT)を確認し、行動の目安にする。
 - エアコン等が設置されていない屋内外での運動は、原則中止/延期をする。
 - のどが渇く前にこまめに水分補給するなど普段以上の熱中症予防を実践する。

7. 令和3年度の実績

全国における **発表地域: 53地域/58地域**
発表日数: 75日/183日
延べ発表回数: 613回
 ※4/28~10/27時点